

辞書ではよくわからない英語の語句と用法

——その3:「political correctness とは何か?」——

藤 本 規 夫

PC と略して使われることもある political correctness または politically correct という語句は英語の世界ではすでに日常語になっている。その起源と意味および具体的な使われ方は別稿^{注1)}で論じたが、今回は日本でどのように使われているかについて紹介したい。

この英語の日本語訳はいまだに定着していないようで、ポリティカル・コレクトネスやポリティカリー・コレクトとカタカナで表記されたり（間違ったポリティカリー・コレクトネスという例もある）、カタカナ表記と「政治的妥当性」などの日本語訳が補助的に加えられたりしているのが現状である。PC も使われるが、パーソナル・コンピュータの略としての用法の方が一般的なので、説明なしに単独で「政治的妥当性」の意味で使われることはないようである。

まず、2001年9月17日に東京で行われた第22期国語審議会第4回総会の第4回議事録の「2様々な人間関係と言葉遣い」という項目から PC に関連する部分を抜粋する。下記の内容はインターネット上で検索したものである。

既述された(1)～(7)について、表現が一層適切になるよう吟味を加える。また、ポリティカル・コレクトネスにかかわる視点から加筆が必要かどうかについて議論があったが、保留になっている。

PC ポリティカル・コレクトネスについて、以下のような議論をした。

- 欧米ではポリティカル・コレクトネス（非差別的な言葉遣い）ということが言われ、性差別等避けるようにしている。
- PC の観点は、21期報告の「付2-(2) 様々な配慮と敬意表現の例」の「話題の選択」のところにある「避けられる話題」にも関連する。何気なく使った言葉が不本意に相手を傷つけることがないように、配慮を促す必要があるのではないか。相手を尊重することを基本に、配慮する、差別しないということである。

この PC について何も書かないと、手話話者などは自分たちの存在を無視されたという取り方をするということである。21期の言葉の性差について書いたことは意味があったと思うから、その延長として PC という言葉を使うかどうかはともかく、誤解のないように項目を立てて大切に扱いたいという意見と、最後の○に見られるように、PC という意識は日本では一般的ではないと思うという意見が出ている。

- PC については、ここの議論のところで書かれてあるとおりで、日本ではまだ一般的ではないから慎重にしようじゃないかという意見もあって、まだ結論は出しておらず、この言

葉を出した方がいいのかどうかということを議論している状態である。

このように国語審議会でも話題としては取り上げられているが、その内容を見ると、「欧米でよく使われる」「日本でも無視するわけにはいかない」、しかし「日本ではまだ一般的とまでは言えないので、慎重に扱った方がいい」という結論のようで、なぜか及び腰の感じが強い。

次に実際に新聞等で使用されている例を拾ってみる。

1. 橋本龍太郎通産大臣（当時）が1994年10月、国会で「第二次世界大戦に限定した場合、日本は米国、英国、オランダと戦争を行ったことは事実だが、侵略戦争と言い得たか疑問は残る」と答弁したことが、韓国や中国、香港などで問題になったことがある。それに関する対談の中で、猪口邦子上智大教授が次のような表現で批判をしている。（「朝日新聞」朝刊，1994年11月16日）

「英語で最近よくポリティカリー・コレクトという表現がされて、これは政治的に正しい発言か、ということです。例えば、侵略のより厳密な定義を議論しなければ学者の立場を取るとよろしいので、政治家はやはりポリティカリー・コレクトなことを表現してもらわなければ困ります」

2. 「名作劇の女性観 現代とズレ、苦心の演出」と題する新聞記事の中で、舞台芸術に関する評価や演出について PC の概念が使われていることに触れている。

芸術作品の評価にはどうしても時代の影響が入り込む。したがって、どんな古典的な名作であっても、時代によって見え方や見方が違ってくることがある。特に最近意識されているのは、男女の姿の描き方である。これは男女の平等を実現しようというフェミニズムの影響を受けている。また、舞台劇場の観客の多くは女性であるため、女性を怒らせるような男女関係を描いたのでは、多くの観客を呼び込むことができない、としている。（「朝日新聞」朝刊，1997年5月24日）

「そこで現代の演出家は、多少ともフェミニズム的なポリティカル・コレクトネス（PC＝政治的妥当性）を意識した舞台作りを迫られる」

「むろん演劇は、もともと男女の正しいあり方を示すための場ではない。だから PC をあまり厳密に持ち込むと、演劇本来の遊戯性やおおらかな笑いは損なわれてしまう。だが、好んで人間の愚かしさを描く演劇と、正しさを求める PC がいや応なしに共存を求められる時代が来ていることは間違いないようだ」

3. 「ギスギスした社会招く 強者の論理」と題する藤原正彦お茶の水女子大学教授の記事は、PC を自由競争との比較において論じたものである。自由競争の時代だからこそ PC が必要なのかもしれない、としながらも、PC が強者の論理を貫くための「リップサービス」ではないか、と PC が万能でないことを指摘している。（「朝日新聞」夕刊，1999年1月9日）

「世はポリティカリー・コレクト（略して PC）の時代である。10年余り前にアメリカで生まれたこの言葉は、文字通りの『政治的に正しい』という意味でなく、差別に結びつきかねない言動を避ける、という規範のことである」「PC は今や世界に広がっている。私の出席する種々の会合でも、身障者のため、在日外国人のため、貧しい人々のため、などという発言が飛び出すと座は凍りついたようになる。ほかにより緊急のことがあっても口に出せなくなる。マスコミを見ても PC 花盛

りである。行き過ぎにまゆをひそめる人々が出てきているが、PC は、これまで欠けていた視点でもあるから、文句のつけようがない」

4. 「NY 消防士像立たず『逆差別』と計画に批判」という題の新聞記事。9・11の同時多発テロに関連して、ニューヨークに消防士像を立てる計画が持ち上がったが、もともになった写真には3人の白人が写っていたにもかかわらず、実際の彫像の構図は白人、黒人、ヒスパニックそれぞれ一人ずつに代わっていたことが問題となった、というもの。彫像化を決定したニューヨーク市の消防本部は、構図を変更したのはマイノリティーに配慮したためとしている。（『朝日新聞』夕刊、2002年1月21日）

「この変更が物議をかもした。社会的弱者に配慮を求めるポリティカル・コレクトネス（PC）運動を推進してきた団体は歓迎したが、一般には『人種の逆差別だ』といった不評で、一線の消防士たちも『事実を曲げるな』と反対署名を約千人分取りまとめ、市消防本部に提出した」

5. 高島俊夫氏は『週間文春』の連載「お言葉ですが……」で、一昔前の「人民」「平和」「民主」の「三点セット」もイヤだったが、「新三点セット」の「差別」「人権」「女性」はもっとイヤだ、としている。そして、2002年1月末に田中真紀子外務大臣（当時）が新聞記者の前で泣いたことに対する小泉首相のコメント（「涙は女の最大の武器だって言うからね」（朝日）、「涙は女性の最大の武器だって言うからね」（産経））や、その後の川口環境大臣（当時）の話し（「素晴らしい男性の前で涙を流して、それは女性の武器だと一度言われてみたい」）などに関連して次のように書いている。（『週間文春』2002年3月28日号）

「しかし川口大臣が国会でこう言ったことで、『男性』『女性』がいまは『ポリティカリー・コレクト』（PC）のことばになっているらしいことがわかった。もし川口大臣が『殿方の前で』とか『女の武器』とか言ったら、またバカなやつらにギャアギャア言われかねないのかもしれぬ。小生が『男性』『女性』に不快を感じるのも、一つには、このPC のにおいが附着しているゆえだと気がついた。してみると産経が小泉総理の発言を変えたのも、すくなくとも単語はポリティカリー・コレクトであったのだ、ということにして、小泉さんを擁護したつもりであったかもしれないね」

なお、ポリティカル・コレクトネスやポリティカリー・コレクトという言葉は使われていないものの、明らかにこれに反する政治家などの発言が問題となった例には事欠かない。そのうち日本のメディアに報道された一部の例を挙げてみる。これらの発言は「不適切」「不謹慎」「不用意」などと批判されることが多いが、これらの批判語はポリティカリー・コレクトの反対語のポリティカリー・インコレクト（または、ポィティカル・コレクトネスの反対語のポリティカル・インコレクトネス）と置きなおしてもいい表現であり、発言が批判されると「釈明」や「謝罪」が行われるのが常である。

1. 中曽根首相（当時）の「知識水準発言」

1986年9月25日、中曽根首相が自民党全国研修会で「米国には黒人やプエルトリコ人、メキシコ人があるから日本より知識水準が低い」と発言したことが、米国でも報道されて批判を呼んだ。これに対し、中曽根首相は「他国をひぼうしたり、人種差別をしたわけではない」「説明不足、舌足らずだった」などと釈明した。（『朝日新聞』朝刊、1986

年9月24日、25日)

2. 自民党渡辺政調会長(当時)の「黒人差別発言」

1988年7月24日、渡辺政調会長が自民党軽井沢セミナーで、「日本人は破産というて夜逃げとか一家心中とか、重大と考えるが、クレジットカードが盛んなむこう(米国)の連中は黒人だとかいっぱいいて、『うちはもう破産だ。明日から何も払わなくていい』。それだけなんだ。ケロケロケロ、アッケラカのカーだよ」と発言した。これに対し、在米日本大使館に続々と抗議が寄せられた。渡辺氏は「全体のトーンとしては差別の意図は全くないが、不用意な言葉だとわかった」と弁明した。(「朝日新聞」朝刊、1988年7月26日、27日)

3. 通産省の外郭団体が「表現不適切」広報誌を回収

財団法人原子力発電技術機構が、広島アジア大会を取り上げた同機構の広報誌10月号で、「世界で初めて原爆の洗礼を受けた同地。被爆のイメージを極力抑制した大会の演出がさわやかです」と書いたことが被爆者から批判を浴びた。その結果、同機構はすべてを回収するとともに、「『さわやか』などの表現が被爆者の気持ちを傷つけ、申し訳ない」とした。(「朝日新聞」朝刊、1994年11月1日)

4. 石原東京都知事が「三国人発言」

2000年4月9日、石原東京都知事が陸上自衛隊の「創隊記念式典」の挨拶の中で「不法に入国した三国人、外国人が凶悪な犯罪を繰り返しており、大きな災害では騒擾事件すら想定される」などと発言したが、その中の「三国人」という言葉が物議をかもした。石原氏は「三国人とは、不法入国している外国人や犯罪を繰り返しているその種の外国人のことを言っている。なんで言っではいけないのか」と聞き直っていたが、4月20日になって「一般の外国人の皆さんの心を傷つけるつもりは全くないので、今後は、誤解を招きやすい不適切な言葉を使わぬように致します^{注2)}」などと文書で釈明した。(「朝日新聞」朝刊、2000年4月11日、4月20日)

5. 尾身沖縄相(当時)が「単一民族発言」

2001年11月29日、尾身沖縄相が講演で「日本は単一民族」などと発言したことに対し、北海道ウタリ協会が抗議。尾身氏は「アイヌ民族を傷つける意図はなかったが、不適切な言葉遣いだった。反省し、おわびする」と謝罪した。(「読売新聞」朝刊、2001年12月30日)

なお、「単一民族発言」は、1986年中曽根首相の「知識水準発言」の中にもあったし、2001年7月2日には鈴木宗男自民党代議士(当時)が「日本は一国家、一民族」などと発言、同日平沼経産相(当時)が別の場所で同じような発言をしていずれも問題になった。(「朝日新聞」朝刊、1986年10月5日、2001年7月3日、2001年7月4日)

最後に、2002年10月13日付け「朝日新聞」朝刊の新聞週間特集の中の「紙面をジェンダーの視点で」というタイトルの記事から関連部分を紹介しておく。ここでもPCという言葉は使っていないが、その内容は正にPCに配慮した結果であると言える。

「朝日新聞社は、社内の『取り決め集』を4年ぶりに改定したのを機に、一般死亡記事の敬称を男女とも『さん』にし、ジェンダーについてのガイドラインを盛り込みました。ジェンダーの視点を、人権尊重だけでなく、女性を起点としたさまざまな構造変化を読

み解くかぎとして、紙面に生かしていきます」

(取り決め集抜粋)

- 男女のいずれかを排除したり、いずれかに偏ったりしない。
- 性別により役割、職業を固定化しない。
- 男女間に優劣・上下の関係が存在するかのような扱いをしない。
- 必要以上に性別による区分を行わない。
- (写真などで) 女性を飾り物・性的対象物として扱わない。

お わ り に

最初にあげた国語審議会の議事録にあるように、日本ではポリティカル・コレクトネスやポリティカリー・コレクトという言葉そのものはまだ「市民権」を得ていないといえるし、少なくとも日常語として使われるまでには至っていない。しかし、「PC という意識は日本では一般的ではないと思う」という部分が当たっていないのは上に挙げたいろいろな例から明らかである。日本で使われている例を見ると、アメリカでの現象を説明したり、紹介したりする場合が多く、アメリカでのみ通用する概念のような誤解を招きかねないが、この言葉の意味・精神は日本でも受け入れられており、これに反する言動が批判されるという現象は基本的にはアメリカと変わらない。ただ、上の例からも読み取れるように、この傾向が行き過ぎることに対する警戒感や懐疑的な見方が日米ともにあることも事実である。日米双方での今後の推移に注目したい。

注

- 1) 藤本規夫「アメリカの『多文化主義』と『政治的妥当性』について」(『広島文教女子大学紀要』第30巻, 1995年12月), 同「アメリカにおける『政治的妥当性』(Political Correctness)の文脈」(『広島文教女子大学紀要』第31巻, 1996年12月)
- 2) 筆者はテレビ番組を見ていないが、インターネット上で紹介されているところによると、石原知事は2002年4月16日午前10時からのテレビ朝日『サンデープロジェクト』で次のような発言している。
石原知事: 友人、竹村健一がポリティカリーコレクトな発言を、と。
新聞で、「三国人」と、言っている例、いくらでもある。
不良外国人の犯罪が非常に増えてね。